

## 平成22年度第2回墨田区地域福祉計画推進協議会議事要旨

日 時： 平成22年11月15日（月）午後2時00分から午後4時00分

場 所： 墨田区役所12階 123会議室

- 議事内容：
- 1 開会
  - 2 福祉保健部長あいさつ
  - 3 議題
    - (1) 墨田区地域福祉計画 中間のまとめ（案）について
    - (2) 墨田区地域福祉計画（後期）の  
平成21年度実績・平成22年度事業計画について
    - (3) 墨田区高齢者福祉総合計画・第4期介護保険事業計画の  
平成21年度実績・平成22年度事業計画について
    - (4) その他
  - 4 閉会

### 【配布資料】

墨田区地域福祉計画 中間のまとめ（案）

墨田区地域福祉計画 中間のまとめ（案）について（概要）

各計画事業評価集計表（墨田区地域福祉計画（後期）、墨田区高齢者福祉総合計画・第4期介護保険事業計画）

墨田区地域福祉計画（後期）主な取り組み

—平成21年度実績・平成22年度計画—

墨田区高齢者福祉総合計画・第4期介護保険事業計画

—平成21年度実績報告・平成22年度計画—

墨田区地域福祉計画（後期）主な取り組み

—平成21年度実績・平成22年度計画—（概要版）

墨田区高齢者福祉総合計画・第4期介護保険事業計画

—平成21年度実績・平成22年度計画—（概要版）

### 【参考資料】

- 地域福祉推進ワークショップ「みんなで考える福祉のまちづくり」

墨田区地域福祉計画推進協議会委員名簿

| 氏 名    | 所 属                     |
|--------|-------------------------|
| ○山口 稔  | 関東学院大学教授                |
| 鈴木 洋   | すみだ医師会会長                |
| 小西 正裕  | 東京都本所歯科医師会会長            |
| 青山 晰子  | 墨田区薬剤師会副会長              |
| 大屋 善次郎 | 墨田区民生委員・児童委員協議会会長       |
| 西山 垣八  | 墨田区障害者施策推進協議会会長         |
| 浮嶋 松男  | 墨田区障害者団体連合会会長           |
| ◎野原 健治 | 墨田区私立保育園協会、興望館館長        |
| 横田 一夫  | 墨田区老人クラブ連合会副会長          |
| 植竹 香苗  | 墨田区たちばな高齢者在宅サービスセンター施設長 |
| 今 牧 茂  | 墨田区社会福祉事業団事務局長          |
| 深野 紀幸  | 墨田区社会福祉協議会事務局長          |
| 北村 嘉津美 | 墨田区男女共同参画推進委員会委員        |
| 石鍋 光子  | 朗読奉仕「くさぶえ」              |
| 伊藤 林   | 個人ボランティア                |
| 本宮 秀明  | 全国福祉情報研究会3SUNネット墨田支部    |
| 小川 昭   | 墨田区ボランティアサークル連絡会        |
| 齊藤 宮子  | 点訳グループ「きつつき」            |
| 細川 保夫  | 墨田区福祉保健部長               |
| 鈴木 陽子  | 墨田区子育て支援担当部長            |
| 稲垣 智一  | 墨田区保健衛生担当部長             |

◎推進協議会会長 ○推進協議会副会長

事務局

|               |          |
|---------------|----------|
| 厚生課長          | 相澤邦雄     |
| 保護課長          | 浮田康宏     |
| 障害者福祉課長       | 鈴木一郎     |
| 介護保険課長        | 石井秀和     |
| 高齢者福祉課長       | 高村弘晃     |
| 子育て計画課長       | 岩佐一郎     |
| 児童・保育課長       | 高橋政幸     |
| 子育て支援総合センター館長 | 前田恵子     |
| 保健計画課長        | 小久保明     |
| 厚生課           | 川崎、伊藤、舟川 |

## 1 開会

(事務局) 平成22年度第2回墨田区地域福祉計画推進協議会を開会します。はじめに、福祉保健部長よりごあいさつ申し上げます。

## 2 福祉保健部長のあいさつ

(部長) 皆様、本日はお忙しい中、ご出席いただきありがとうございます。また日ごろ各分野でご尽力をいただいていることに感謝申し上げます。本日は、次期23年度以降の地域福祉計画中間のまとめ(案)ができましたのでご審議をお願いします。この中間のまとめ(案)を作成するにあたり、広く区民や関係者の方々のご参加をいただくためにワークショップを開催し、同時に拡大作業部会を設置して地域の関係者の方々に参加いただき5つテーマを取り上げて検討してきました。この間、野原会長、山口副会長をはじめ委員の方々にはお忙しい中ご参加いただき、また大変熱心にご討議いただき心から感謝申し上げます。本計画案は、地域の人と人がつながりをもって、住民同士で支えあうことを基調として、様々な地域の団体が連携をとって住みやすい地域をつくっていくことを根底にしています。今年は100歳以上の高齢者の所在不明問題が表面化し、マスコミでも広く取り上げられましたが、地域の人と人とのつながりが希薄化していることがこのような事件を浮き彫りにしたと認識しています。今後、高齢化、少子化がさらに進むと人と人とのつながりはさらに大切になり、この計画は益々重要になってくると考えます。本計画案はこの推進協議会でご審議いただいたあとに、第4回定例会に報告し、次にパブリック・コメントを実施して区民の方々からご意見をいただいた上で最終的な案をつくっていく予定です。本日はその他に、地域福祉計画(後期)、高齢者福祉総合計画・第4期介護保険事業計画の21年度実績と22年度の事業計画についてもご審議いただきます。皆様の忌憚のないご意見をよろしく申し上げます。

(事務局) この協議会は区民への公開が原則となっておりますが、本日の傍聴申し込みはなかったことを報告します。また、西山委員の代理で高松さんに参加していただいています。それでは議事を進めます。

## 3 議題

### (1) 墨田区地域福祉計画 中間のまとめ(案)について

(会長) 大変忙しい日程でしたが、皆様の協力的なご参加、ご意見をいただき策定できたことにお礼を申し上げます。また、推進協議会だけではなくて庁内の意見調整もよく行われたと感じています。本日の中間のまとめ(案)には、様々な制限や限界があることも事実ですが、墨田区の現状を含んでいることをご理解いただきたいと思います。それでは策定の経過、内容のポイントの説明を事務局よりお願いします。

(事務局) 協議会の資料は事前に郵送させていただき、本日、ワークショップのチラシも配布しました。ご確認ください。それでは、資料を説明します。

#### —資料説明—

(会長) 地域福祉は大きな視野が必要で色々な人達の言葉を聞かないと全体をつかめないという性格があります。まず、それぞれの分野、立場でご発言、ご意見をお願いします。

- (委 員) 今回、委員として参加する中で、自分達の分野にもできることがあることに気が付くことができました。私の住んでいる墨田のあたりはお祭りなどにもぎやかで、まだまだ町会、老人会などの活動もあるのですが、地域福祉の拠点になるところがないような気がします。文花地区や立花地区には多くあります。表通りの空き店舗のような身近なところに拠点があれば、だれでも気軽に立ち寄れると思います。
- (会 長) 地域福祉をすすめる拠点としてどのようなところが考えられるかということですね。
- (委 員) 最近、近隣の5軒ほどで家族葬あるいは密葬が行われ、私は近隣の方の死を知りませんでした。家族葬や密葬は若い方々にとってはよいところもあり増えていますが、今までお付き合いのあった方や活躍され方とお別れができないことは大変さびしく、ここにも人と人との関係が希薄になってきていることを感じます。お葬式はお金がかかるので、区や地域で簡単にできるような考えていくとよいと思います。
- (委 員) 密葬という言葉自体もさみしい感じがします。
- (会 長) そうですね、人目をばかっているようで、人と人とのつながりの希薄化が葬儀に象徴的にあらわれてきていると感じます。
- (委 員) 私は地域での民生委員活動を通じてこの計画の全分野に関わってきました。本協議会を通じて冒頭から地域コミュニティの再生が、今後10年間の計画の視点になるのではないかと言いつけてきました。小学校を中心とした学校選択制が地域コミュニティの弱体化を促進し、地域福祉推進の大きな阻害要因となっています。計画案には地域コミュニティの重要性は大変きめ細かく書かれていますが、弱体化したコミュニティの再生のための具体的な方策は1つありません。地域コミュニティには2つの要素があり、広辞苑には一定の地域に居住し共属感情をもつ人々の集団と書いてあります。私が学校選択制を問題視しているのは、地域の小学校が地域コミュニティの共属感情を育む最も重要な源泉の1つであるからです。このままでは、本計画は仏つくって魂入れずのように思えてなりません。そこで、第4章計画推進の主体、区の役割の中に区政の整合性を保って福祉を推進することをぜひ入れていただくよう提案します。10年間、民生委員活動、地域福祉活動を続けてきて区政の整合性のなさを痛感してきました。確かに学校選択制がだめだとは言えないのですが、少なくとも区民に対して整合性のある行政をしていただくことが大事だと思います。
- (会 長) 本計画にコミュニティ再生の視点をもっと明確に出してほしいということ、行政の中での整合性を図るようなものがほしいという提案でした。大きな課題であり、重要なポイントだと思います。
- (委 員) 子どもというのは地域の学校に通うことが当たり前だったのに、今は小学校によって生徒数に偏りがあると聞きます。地域の子どもが地域の学校へ通って地域の人が見守ることが、やはり基本だと思います。また、私は一人暮らしをする中、だんだん高齢になってきて、自宅に一人でいるときに倒れてしまったらどうしようという心配があります。地域の人と人とのつながりが希薄になってきているので、一人ひとりが気軽に相談にいけるような、地域のプラットフォームを早急につくってほしいと思います。
- (委 員) 以前、育成委員として地域懇談会に参加した際、学校選択制についてアンケート調査をしたことがあります。町会サイドでは学校選択制はおかしいという意見が多いので

すが、親は自由に選べるほうがよいという意見が多く、教育委員会は希望している人がいる以上は変えられないということでした。地域で子どもを育ててほしいなどと言われても、地域行事に参加しない子どもばかりで近所の子どもかどうかもわからない状態です。地域で子どもを育てることが大事であれば、いじめなどの問題で学校が変わるといった特別な場合を除いては、子どもを地域の学校に通わせ、保護者は地域行事や旗当番など地域のコミュニティに参加してほしいと思います。地域のコミュニティを守るために一歩進んで考えてほしいと実感しています。

(会 長) 一人暮らしの高齢者にとっても、プラットフォームが必要とされています。住民と行政のアイディアで共につくっていくものだと思います。学校選択制の問題は地域にとっては大きな問題です。

(委 員) 錦糸町駅周辺の学区には外国人がとても多く、その子ども達の教育の問題があります。日本語が話せないと、授業がわからない、受験ができない、就職ができないなど将来に格差が出てきます。外国人の子どものクラスをつくりたくても、教員数の問題があり難しい状況です。その子ども達は、将来地域を支えてくれるのですから、違った環境ですが地域のコミュニティに入ってこられるように、話し合っ、新しい何かを模索していかなければならないと感じています。

(会 長) 共生社会を一緒につくっていく必要があると思います。

(委 員) 何度か拡大作業部会に参加させていただきましたが、子ども会や学校の問題は常々出ていました。子どもがいて子ども会があって町会があるというピラミッド型がどうしてもできない。しかし、実際に区の福祉課と教育選委員会が横のつながりをもって具体的に話をしているということは聞きません。実際には少子化の問題が地域に広がり学校選択制の問題も加わり、地域のコミュニティは現在ばらばらの状態ですので、まず基盤をつくる必要があります。また、人と人とのつながりの希薄化、高齢者の孤立化等の問題は、マンションが増えたことにより、より一層深刻化しています。家族単位のマンションだと子どもがいますが、若者の単身マンションだと個人情報の問題があり警察でもなかなか話もできない現状があります。コミュニティをつくるかたちとしては、やはり子どもが主体となってくると思います。

(会 長) コミュニティを再生するといっても、様々な困難があり、それをつなげていく要素として子どもの存在は大切です。

(委 員) 私は吾妻橋二丁目に住んでいますが、小梅小学校が区域になっているのに、ほとんどの子どもが横川小学校に通っていて、地域には違う学校の子どもばかりで子ども会が成り立たない状態です。私は小梅小学校のPTAの顧問を何十年もしているので、地域の子どもの小梅小学校に通ってほしいと思うのですが、今まで地域にあった幼稚園・保育園がなくなって、子ども達は浅草あたりの幼稚園などに通うようになり、親同士はそちらで知り合いができます。横川には光の園保育学校があり小さい頃から預かってもらえ、友達もそちらにいるとなると、小梅小学校の区域に住んでいても小梅小学校に入るはずはありません。また、新しく転居してきた人達は隅田公園を通して学校に行くことが怖いと言います。現在は随分ブルーテントはなくなり、そういう心配はあまりないのですが、やはり親としては心配なのだと思います。そのような方々は地域活動に参加しないので、地域は大変な状態にあります。

- (会 長) 地縁というものができにくい現状にしているのかもしれませんが。
- (委 員) 協議会に参加して、小学校の選択制は地域のコミュニティを壊していくこともあり、難しい問題なのだと学びました。私は昨年、家族葬を行いました。仕事をしていると近所の人とあまり知り合いになれませんが、子どもが小学校、中学校時代の親同士の付き合いは何十年経っても大切なもので、そのお母さん方からおばあちゃんが亡くなったの知らなかったと言われました。家族葬は家族にとってはお金だけでなくエネルギーを使わなくて済みます。しかし、いつもがんばっていたおばあちゃんがいなくなってしまうことを地域の人に知らせる機会を失ってしまったと、本日改めて感じました。また、地域福祉計画の策定に関わる中で、老人ホームはとても敷居の高い場所だという意識をなんとか変えたいと思い、先日、町会の理事会に参加して、最近の高齢者施設の現状について、お金の話や入所の条件などをお話させていただきました。プラットフォームがあっても、そのプラットフォームがどう窓口を開いているか、こちらからもっと働きかけていくことが重要だと感じています。
- (委 員) 現在墨田区では、生まれたこの地に住み続けたいと思っても、区内では高く広い住居をもてないなど、住み続けられない状況があります。また、私は都営住宅に住んでいますが、最初の契約者が亡くなった時点で子ども達には住み続ける権利がなくなってしまうので、地域コミュニティをつくりたくてもつukれないのです。また、ここ4・5年の間、空いた2部屋に新しく入ってきた方は、中国などの外国の方です。自治会の役員をやっていただきたくても言葉の関係で強要できません。制度やサービスはとても細かくよくなっていて、住みやすい地域づくりにはなっているとは思いますが、国がもう少し公的な住宅を整備していかないと地域はつukれないと思います。
- (委 員) 江東区では転居届けを提出する際に、区で行っているサービスの紹介や色々な書類一式と観光案内などが入った引越しパックをいただけるそうです。墨田区にはそういうものがなく、何もかも自分で調べなければならないので、今あるパンフレットを集めて案内としてまとめたものをつくっておくと、助かる方もいるし窓口での印象もよいと思います。計画は素晴らしいと思いますが、現実的なところが手薄な感じがします。曳舟に新しくつくられる区立図書館は商業施設の2・3階だと聞きました。1階に入る施設によっては、親としては子どもに行かせたくないと思います。今ある寺島図書館は素晴らしい環境にあり、地域のお母さんにとっては子育てのプラットフォームになっています。図書館には読み聞かせや高齢者、障害者へのサービスなど色々なサービスがあるので、プラットフォームにとりこんでいってほしいと思います。
- (会 長) これは具体的に取り組めることだと思います。
- (委 員) 現在、墨田区の老人会は149クラブあります。都から助成金をいただき全クラブで祝い活動をしています。できるかぎり、ひとり暮らしの方をはじめ全会員の家をまわるように活動してきました。先ほどお話に出た葬儀についてですが、私は次の世代の息子、娘にほどほどの葬儀をして送ってほしいと今から伝えています。
- (会 長) 次の世代の考え方がとても影響してきますね。
- (委 員) 本日、各分野の方々のお話を聞いて、国の方策など、どうしようもできない分野もありますが、できる分野を地方自治体の単位で工夫してやらなければならないと思いました。具体的なものも出てきていますので、計画にどのように盛り込んでいくかが課

題だと思えます。これから具体的な内容をさらにつめると考えていいですか。

(会 長) 今回の中間のまとめ(案)の内容で、ほぼまとまっています。

(委 員) 人口は25万人を超え、今後もしばらく増えると話も聞きましたが、どうなのでしょう  
うか。

(事務局) 現在、人口は増えるだろうという予想です。

(委 員) 組織を横につなげるしくみづくり、いわゆる縦割りの弊害を改めていくことは永遠の  
課題だと思っていますので、私も整合性のある行政の推進という内容を入れ込むこと  
に賛成です。保健福祉センターでは介護認定を受けた高齢者のデイサービスをしてい  
ます。利用者は高齢化していて車いすの方の割合がだんだん増えてきています。ご家  
族は大変だと思えますが、デイサービスでゲームをしたり、認知症のグループで音楽  
療法をしている方はとてもいきいきとしています。ゲームすることや音楽のリズムに  
のって楽しく過ごすことでコミュニケーションがとれることを発見しました。敬意を  
はらって介護、接遇をする中で、高齢者の中にある質の高い能力を引き出しながら、  
高齢者同士のコミュニケーションをつくっていききたいと考えています。

(委 員) 私は墨田区横川の生まれです。確かに昔は、学校が終わったあとで上の子も下の子も  
集まって遊んだので、みんながお互いをわかっていました。今は地域の子も同士で  
もまったくわかりません。しかし、学校選択制だけが地域コミュニティの崩壊の原因  
ではないと思います。もう1つ別の話ですが、社会福祉協議会では障害児が集まり遊  
んで帰るといっておもちゃサロンをやっていて、先日、あるNPOの地域雑誌の取材を  
受け、紙面一面を使ってサロンの紹介をしていただきました。掲載があってからの反  
響はすごいもので、確かに地域には同じ課題を共有したい人やコミュニティをつくり  
たい若い人がいて、そういう雑誌を見るのだと実感しました。区報にはある程度の制  
約があると思いますが、掲載の大胆さや親の共通した思いを汲み取るような情報提供  
ができるとういと思います。インターネットの中にも若い人のそういうつながりが存  
在していると思います。区の計画の中に、そういうことに積極的に関わっていくよう  
なしくみを取り入れていく必要があると思います。

(委 員) この4月まで私は江東区の地域保健の担当でした。江東区は南半分は埋立地で一齐に  
転居されてきた方が多いまちで、新しく入ってきた人達でどういうまちをつくるのか、  
南の新住民と昔から住んでいる北の住民の融和が課題です。そして4月から墨田区に  
来たのですが、コミュニティ活動という面に関しては、社会的ストックがあるまちで  
地域保健ができていることを実感しています。新しい流れや動きはありますが、その  
地域に応じて社会的ストックを計画に活かしていければよいと思います。

(会 長) それでは、委員皆様のご意見等をお聞きしましたので、山口副会長から一言お願いし  
ます。

(副会長) 私は横浜に住んでいます。つい先日も前に住んでいたおばあちゃんがいつのまにか亡  
くなっていました。地域関係が希薄化しているのは墨田区だけではなく、日本の都会  
のどこにでもそういう状況にあると思います。その原因の背景には、区営住宅に海外  
の人が入ってくるような経済のグローバル化があったり、その他にも都市化、  
単身世帯の増加、住民の意識の変化、価値観の変化、あるいは国や自治体の政策によ

ることもあります。1つのことだけではなく、色々な要素が複合的に絡んで原因をつくっていると思います。学校選択制のような話は賛成の人もいて、反対の人もいます。このようにステイクホルダー（利害関係者）マネジメントが必要な場合に大事なことは、多数決で決めるのではなくお互いの意見、立場を尊重して根気よく一致点を見つけて、色々な人が地域の中で共存していけるように、一定ルールで話し合いができること、地域の様々な課題に応じた受け皿としてプラットフォームをつくっていくこと、この2つを同時に進めることだと思います。今回の計画案には、一番の優先的取り組みに見守りが挙げられています。これは住民一人ひとりが参加できる具体的な活動ですが、やれと言われてできるものでもないので、まずは人づくり、次にプラットフォームづくり、情報の周知、理解・参加の促進の順になっているのだと思います。地域福祉計画は行政計画ですが、内容は行政に要求することよりも、一人ひとりの住民が墨田区の中で責任をもって果たしていく役割を示していくことが中心になっています。それを応援するかたちで行政や社協や各関係団体、プラットフォームが役割を果たしていく構造になっています。まさに地域づくりの基本であり、住民の意思を反映し住民の役割を重視する計画になっています。そして、一番重要なことは、計画をつくるだけでなく実行する上でも住民が最大の役割を果たしていくことだと思います。ここに出ている活動1つ1つに役割を担う人・団体・組織が書かれていますが、具体的な取り組みをすることによって地域の具体的な問題も解決され、地域の関係もより深いものとなっていくと思います。最終的な目標は福祉コミュニティの形成にあるのです。また、これからはNPO団体の役割も非常に重要です。地縁団体と共通基盤をつくってお互い理解をして、協力していくことが課題です。今回の計画案は拡大作業部会で5回、ワークショップで1回、様々な方が自分達の地域をよくしていくための知恵を出し合っ、総意をまとめ、整理をしていったので、決して皆さんのご意見と矛盾しているわけではなく、むしろ意向に合っているのではないかという感想です。一般区民に対しては概要版、区報やホームページ、区民の集会など色々な場面を工夫して周知し、これからの具体的な活動の中で伝えていくことが大事だと思います。

(会 長) 今後はパブリック・コメントで区民の意見を収集して、最終的には2月の推進協議会で正式に承認という流れになります。中間のまとめ(案)についてご承認をお願いします。次に議題(2)(3)に進みます。

(2) 墨田区地域福祉計画(後期)の平成21年度実績・平成22年度事業計画について

(3) 墨田区高齢者福祉総合計画・第4期介護保険事業計画の平成21年度実績・平成22年度事業計画について

(事務局) 資料を説明させていただきます。

—資料説明—

(会 長) ご質問がないようですので、ご承認をお願いします。事務局からその他の連絡をお願いします。



#### (4) その他

(事務局) 本日、中間のまとめ(案)にいただいたご意見は検討させていただきます。12月11日にホームページ等でパブリック・コメントのご案内をして、区民の皆様のご意見を収集します。あわせて、地域福祉推進ワークショップ「みんなで考える福祉のまちづくり」を12月11日14:00~16:30、区役所13階131会議室で開催します。計画案の「中間のまとめ(案)」の報告と、今後どのように地域福祉を進めていくかを中心に話し合いたいと考えています。ぜひご参加ください。また、次回の推進協議会は2月4日10:00から開催します。本日いただいたご意見とパブリック・コメントのご意見を反映させた計画を提案させていただきます。

#### 4 閉会

(会長) 最後に、策定にあたって推進協議会、作業部会、拡大作業部会で皆様のご意見をお聞きした私の感想は、地域には抱えきれない課題が山積しているということです。福祉にはお金が必要ですが、現在の日本経済においては今後心配な要素は多くあります。ここから一歩踏み出すには、従来の行政のサービスに依存する考え方ではなく、それぞれの立場で知恵を絞り、力を合わせる事が重要だと考えています。委員の皆様が課題を適確に把握し、責任をもって取り組んでいることにとても勇気づけられ、この推進協議会が地域福祉の中心になっていくべきだと思っています。ワールド・カフェでは、お互いの指摘をしないで共有するかたちで力を合わせていくノウハウを体験し成果を得ることができました。行政の方々からもよくお話をうかがいまとめ上げた計画です。私は私なりに、この計画の中の文言を使ってどういうプラットフォームができるのかを実行していきたいと思います。地域のコミュニティなしに地域福祉はありません。学校選択制の問題もありますが、人と人とのつながりの希薄化にどういう手立てができるのか、他にもまだまだたくさんあります。ここだけで考えるのではなく、現在あるプラットフォームで区民と共に考え、力を合わせてやっていきたいと思っています。本日のご意見は事務局と話し合い、2月の時点で最終案として皆様にご提示したいと思います。それでは、第2回墨田区地域福祉計画推進協議会を閉会します。